

# 教務だより

2013年8月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 「超える夏」、夢への一步

茗溪塾塾長 宇野 雅春

子供たちは将来をどんなふうと考えて、今を過ごしているのか？とふと考えてみました。多分、将来を考える機会は少なく、どうなりたいかを判断するにも材料は少ないのではないかと思います。面談をしていると勉強しない理由に、「将来役に立つとは思えないから」と意見を言う子がいます。「どうやって暮らして行くの？」と聞くと、「コンビニで働けばいい」と答えます。コンビニの仕事が、本人にはものすごく気楽で簡単に見えるらしいのです。どんどん新しい商品が入り、レジ打ちの合間も片時も休まず商品管理をしている様子だけを見ても、気軽な仕事とは思えず、色々なお客さんがいることを考えると、売るだけでなく、うまく人と関われる技量が要求されていることが分かります。

世の中で「糧」を得て行くことの厳しさがそこにはあると思うのです。子供たちに本当に必要なことは、次のレベルに向けて今の自分を越えて行くことではないか…と思います。今、現在大人になっている誰もが、たくさんのハードルを越えてきていることは間違いありません。「受験」は子供たちが最初に経験するハードルです。大人たちが遭遇するのは「受験になれば本人もそれなりに頑張るんだろう」という甘い予測です。いつまでたっても勉強に向かおうとしない子供にしびれを切らしながらも突破口を見つけられず、そのうち「ほどほどでいい」という開き直りに変わります。中学受験にしる高校受験にしる大学受験にしても、親はまだ役割を担っていく段階にあります。特に何になりたいかが全く見当もつかない子供には指導が必要です。行くべき方向が見つければ、あとは何とかかなるとして「学問」をするということは、自分で自分の道を見つけることにつながるものです。

高度成長の途上ということもあって、私や私の親の世代はまだ多少のんびりしていたり、他のことに関心があって、勉強からそれでも、いろいろな道が経済成長につれて出てきたように思うのです。それに比べると、今の低成長期の競争社会はもっと厳しく余裕がないように見えます。13歳のハローワークが必要という所以もそこにあります。

「がんばるのは、いつ?」「がんばるなら、今でしょ!」というところです。一向にがんばりそうにない子供達に実は戸惑っているのが大人達です。友達関係や「いじめ」ゲームにはまったり、心の病気も無視できません。何とか前向きに健やかに成長してほしい…それが親や子に関わる大人の願いです。「合格体験記」を読むと成功している生徒はどこかで大きな気づきをしています。やる気というのは、周りから与えられる物ではなく「自分で気づく」ことです。この気づきは早ければ早いほど人生に大きく差をつくります。

「僕が成長したと感じたのは、進んで勉強するようになったことと、毎日のスケジュールをたてられるようになったことです。そして一番の成長は心の成長だと思います」

合格体験記の一文ですが、この受験で得た物が次のチャレンジに必ずつながります。

夏休みは長期間ということでは、自分を変えるもっとも大きなチャンスと言えます。

前へ進もうとする気持ち、ちょっと我慢する気持ち、人より少し努力すること。そしてそれができるといこと。それが自分の中で、夢が形になってきたときに大きく役立つ「力」になります。先生方も受験直前期と並ぶ精神的にも肉体的にも最も厳しい時期です。でも、ここで大きく変わる生徒を見られるのは、喜びでもあり、そんな期待感で頑張っています。受験学年、非受験学年にかかわらず自分を前へ一步進めるといこと。夏はその「大きなチャンス」ということを忘れないでほしいと願っています。